

# DM Ensemble

ディー・エム  
アンサンブル

特集1

## 肥満・非肥満と糖尿病

太り気味はただの太り気味？

No. **4**

2024 / Vol.13

JADEC

(公益社団法人 日本糖尿病協会)



特集2

## インスリンポンプ療法 支援の実際

コラム

- ・地域発！CDEの活動報告
- ・糖尿病カードシステムを活用しよう



# 地域発！ CDEの活動報告

こんな取り組みをしています



## 顔の見える他職種連携による仲間づくり ～糖尿病啓発イベントにおける宮城県歯科医師会との連携～

執筆者



星野 ゆかり (ほしの ゆかり)  
やまと内科クリニック (看護師)

宮城県糖尿病療養指導士認定委員会は宮城県糖尿病対策推進会議の下で2017年に設立されました。現在は認定のための講習会の企画・運営や認定審査、CDE-MIYAGIを普及させるための広報などについて、それぞれ委員会を設けて活動しています(図1)。さらに糖尿病診療に関する正しい知識の普及・啓発などに関する事業の一環として、宮城県歯科医師会と連携し、医療スタッフが中心となってWorld Diabetes Dayに合わせて糖尿病啓発イベントを企画・開催してきました。今回は、これらの活動内容の一部をお伝えします。

### ●糖尿病療養指導士認定団体の概要

名 称：宮城県糖尿病療養指導士認定委員会

創立年：2017年

事務局所在地：宮城県仙台市宮城野区福室1丁目12-1 東北医科薬科大学病院 糖尿病代謝内科内

ホームページ：<http://www.cde-miyagi.jp>

組織目的：主に宮城県で糖尿病診療に携わる医療従事者、糖尿病のある人および家族に対して、糖尿病診療に関する正しい知識の普及・啓発などに関する事業を行い、もって保健・医療・福祉の増進に寄与するための宮城県糖尿病療養指導士(CDE-MIYAGI)を育成する。

委員会世話人：43人

資格の名称：宮城県糖尿病療養指導士(CDE-MIYAGI)

CDE-MIYAGI認定者数：約520人(2024年6月1日現在)

職種：看護師、准看護師、保健師、助産師、管理栄養士、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、歯科衛生士

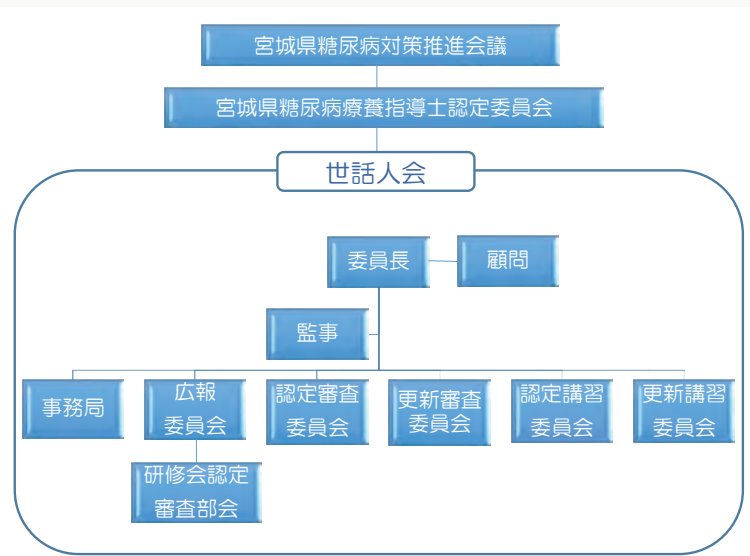
### 宮城県糖尿病療養指導士(CDE-MIYAGI) への熱い思い

2017年3月1日に、約2年の準備期間を経て宮城県糖

尿病療養指導士認定委員会が発足し、糖尿病の予防・治療支援に関して豊かな経験と知識を持つ優れた医療スタッフを広く養成し資格認定するために宮城県糖尿病療養指導士(以下CDE-MIYAGI)の認定制度がスター

トしました。CDEが糖尿病のある人の治療支援を行うことで県内の糖尿病診療が充実することや、CDEが地域の各施設をつなぐ太いパイプ役となって糖尿病発症予防や治療中断防止に貢献することが期待されています。スローガンは「Together Learning！CDE-MIYAGI～糖尿病がある方に寄り添い、自己支援ができる医療スタッフをめざして～」です。委員会世話人もCDE-MIYAGI有資格者と一緒に学んでいきたいという思いが込められており、当委員会ホームページのトップページに掲載されています。

図1 組織図



## 資格取得者および認定者の維持・増加のための工夫

CDEの資格取得の目的は個人によって多様です。資格取得という目標を達成したものの、「資格を取っても何も変わらない」「何かしなければと焦っているが、何をしたらよいかわからない」という悩みを持つ資格取得者も少なくありません。

筆者は当委員会の広報委員会に属しており、ホームページの管理と資格取得希望者募集チラシ(図2左)の作成を担当しています。最初の2年間は片面印刷の募集要項がメインのチラシでしたが、2019年から募集チラシをリニューアルし、両面印刷とし募集要項の片面にはCDE-MIYAGIの資格取得者へのインタビュー記事(図2右)を掲載しています。インタビューの質問は「CDE-MIYAGIの資格を取得したきっかけ」「CDE-MIYAGIとして活動してみた感想」「今後の抱負や目標、活動予定について」の3問で400～500字程度にまとめ、掲載可能な画像を1点提供していただいています。インタビューを依頼する時には職種が偏らないように工夫しています。過去にイベン

図2 2019年度募集チラシ



トに参加・協力してくださった方や、同じ職種のCDE仲間が協力し合って人選しています。インタビュー記事はホームページのサイドナビゲーションメニュー「CDE-MIYAGIの活動」にも掲載し(図3)、過去のインタビュー記事も全て閲覧できるようにしています。このような取り組みをすることにより、募集チラシを手にとった方がCDE-MIYAGI有資格者の活動について情報を得ることにより資格に興味を持っていただくことや、資格取得者の資格維持や更新へ



図3 CDE-MIYAGIの活動（ホームページ用）



のモチベーションが上がることにつながることを願っています。

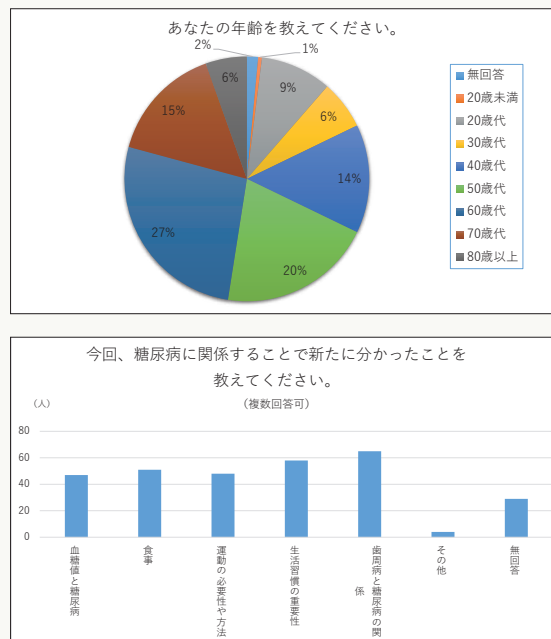
## 糖尿病啓発イベントにおける 宮城県歯科医師会との連携

### 寸劇を盛り込んだ糖尿病教室の開催

2013年より宮城県糖尿病協会として街頭でチラシなどを配ったり、勾当台公園野外音楽堂において糖尿病教室を開催し予防を呼びかけたりする活動を実施してきました。2015年からは宮城県歯科医師会の協力を得て、宮城県歯科医師会館の宮城・仙台口腔保健センターを会場として提供いただき、天候に左右されることなくイベントの企画・運営をすることができるようになりました。宮城県歯科医師会館は仙台市の繁華街である国分町に位置しているため、休日は多くの人通りがあります。老若男女問わず多くの方に参加していただけるようなイベントを医療スタッフが中心となって企画しています。

2016年の糖尿病教室では、講義に寸劇を盛り込み、「ちょっと待って！あなたの食生活 見直してみませんか?」と「飲んで食べて楽しもう 忘年会 ～あなたなら何を選ぶ?お酒と食事の上手な選び方」を初披露しました。2017年にも前年度に好評だった寸劇を再構成し披露しました。俳優陣はイベント世話人から選出しました。イベント裏方の世話人もこの時は笑顔で演じ、さらにキラキラと輝

図4 2018 アンケート結果



いていました。

### 展示や健康チェックへの参加を促す新しい試み

2018年のイベントでは、重要だが知られていないテーマや、関心を持ってもらえないテーマにも興味を持ってもらうために、「スタンプラリー」を企画し、展示や健康チェックを行う全てのブースをラリースポットに設定しました。過去最高人数の参加者に恵まれ、このうち202人がアンケートに協力していただきました。アンケート結果では、10～30代の方の参加もありましたが、40代以上の参加者が全体の8割以上を占めていました。また「今回、糖尿病に関係することで新たに分かったことを教えてください(複数回答可)」という質問に対しては、「歯周病と糖尿病の関係」「生活習慣の重要性」「食事」と答えた人が多く、いずれも50%を超えていました(図4)。お口の健康チェック&相談ブースでは、歯科医師会の先生方と歯科衛生士の皆さんにご活躍いただきました(写真1)。

アンケートには待ち時間に関するご指摘がありましたので、2019年は、会場内の栄養展示や健康チェック、健康相談ブースは2018年の形を維持しつつ、「クイズラリー」

形式にしました。クイズラリーでは、各ブースから1つの問題を出し、合計10問に答えてもらう設定にしました。各ブースは解答を導き出せるような展示物・掲示物を意識して準備しました(図5)。イベント参加カードとして、はがきサイズのカードを準備し、首からカードケースを下げて会場内を回ってもらうことで、クイズラリーの際に両手がふさがらないように工夫しました。会場にはイベント広報目的で“映えスポット”も準備しました。

## 顔の見える他職種連携による仲間づくり

コロナ禍で集合による糖尿病啓発イベント活動をしば

らく自粛していましたが、2023年から活動を再開。2023年は、宮城県歯科医師会館の5階大講堂をお借りして集合研修を開催し、145人が参加しました。糖尿病啓発イベントは多くの方の協力があって成功していると感じます(写真2)。毎年、60～80人の協力スタッフで運営していますが、医療機関のメディカルスタッフだけでなく、事前準備や呼び込みなどでお手伝いいただいている企業の方々、ボランティアで参加してくださる学生の皆さん、会場内の細かい部分までフォローしてくださる宮城県歯科医師会の事務の皆さまにも心から感謝申し上げます。私自身もイベントに協力するようになり、他職種の仲間ができたことが最大の成果であり宝物だと感じています。

図5 クイズラリー（表面）



写真1 お口の健康チェック&相談ブース



写真2 糖尿病啓発イベント

